
ブラック・ローズ

白崎 みらい

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ブラック・ローズ

【Nコード】

N9393Z

【作者名】

白崎 みらい

【あらすじ】

世界で一輪しかない花「ブラック・ローズ」

人間には確認されたことのない幻の花。

現在4月。少年は外を眺めていた。すると隣から半透明の透き通った少女。

ここバスの中だよwさわがないでねw

世界の命運をかけた黒いバラ。それを中心に起こるいろんな事件。「ブラック・ローズ」をきっかけに世界の歯車が動き始める！！

プロローグ

「ブラック・ローズ」それは世界に一輪しか咲いていないといわれる花。

人の知らない間に咲き知らない間に枯れていく。

この花は：現実世界リアルワールドといわれる世界にあると言われている。

だが、人間の手に1度もわたったことがなく見つけられたこともない幻の珍しい花。

今は4月。青い空。白い雲。意外と暖かい春の陽気。

太陽の光を乱反射して海が様々に光輝いてる。

この景色を少年は眺めていた。

少年の名は倉本俊くらもとしゅん。

黒髪の短髪で全然モテないわけでもないが人の集まるほどでもない。中学の修学旅行では知らない女子高生に、可愛いとチャホヤされたくらいだ。

地元から高校が遠かったために実の兄の家へ引越すことにした。だから、今はバスに乗り兄の家のある：緑ヶ丘みどりがおかへ向かっていた。

俊の隣には自分のカバンとリュックを置いていた。それで座席は埋まっている。

俊は外を眺め続ける。

隣から声が聞こえる。

「ねえ、俊。もう少しで緑ヶ丘だね。」

と、女の子の音がする。「ああ、そうだな。」と言いながら振り向く。

「おい、：千里ちとせなぜいちいち座席に出たり入ったりするんだ？おとなしくしてろよ。」

と、俊は千里と呼ばれる少女へ言った。

「え、いいじゃん。別に他の人に見えないんだから。それにこ

んなことしないと暇なんだもん。」

「はあ、待てねえのかよ。小さい時から変わらねえな。」
俊は笑いながら言った。

千里は、俊と幼なじみだ。黒髪のセミロングの女の子だ。顔立ちもすつきりしている。5年前に事故にあって俊が目覚ましてからすでに今のような半透明で透き通っていた。俊でも彼女に触れることが出来ない。

5年前の事故では千里の姉がなくなり俊の妹と千里と一人の少女が行方不明のままだ。ちなみに俊は、致命傷にも関わらず奇跡の生還をしたのだ。

「ねえ、俊。そろそろ着くよ？荷物とか忘れちゃだめだよ？」と、千里。

「ん？わかってるよそんなの。高校生にもなって簡単に忘れるか！。」

「はあ？確認しただけじゃん！だめなの？」

「別に…。」と俊。「ほら、降りるぞ」と言って、バスを降りた。

プロローグ（後書き）

出来るだけ多くの人に読んでもらいたいです。
感想やアドバイスがある方はドシドシお願いします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9393z/>

ブラック・ローズ

2011年12月29日12時47分発行